

令和3年度 第2回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

令和4年1月28日 開会

令和4年1月28日(金) 令和3年度 第2回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	軽部賢		
寒河江市教育委員	鈴木淳一	國井晴彦	
	高橋まり子	鈴木多鶴子	

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	設楽伸子	総務課課長補佐	小関光彦
学校教育課長	佐藤肇	指導推進室長	大竹純
スポーツ振興課長	小泉尚		
学校教育課課長補佐	佐藤芳朗	指導推進室長補佐	鈴木雅寿
生涯学習課課長補佐	佐藤陽一	スポーツ振興課長補佐	笹原泰治

○ 日程

令和3年度 第2回総合教育会議日程
令和4年1月28日(金)

午後3時00分 開議
寒河江市立図書館視聴覚室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

(1) 寒河江市学校施設整備計画(案)について

4 その他

5 閉会

1 開 会 午後3時00分

2 あいさつ (佐藤洋樹市長)

3 協 議 (座長：佐藤洋樹市長)

(1) 寒河江市学校施設整備計画(案)について

○佐藤洋樹市長

それでは次第に従って進めてまいりたいと思います。(1)寒河江市学校施設整備計画(案)について、を議題としたいと思います。

①資料説明を学校教育課長にお願いしたいと思います。

○佐藤学校教育課長

それでは私の方から、寒河江市学校施設整備計画(案)について、ご説明申し上げます。こちらにつきましては、「寒河江市立学校のあり方検討委員会」の答申を受け、教育委員会の方で案として作成したものでございます。事前に皆様には資料をお渡ししておりますので、概略という事で説明させていただきます。

資料の3ページをお開き頂きたいと思います。まず、Iの学校施設整備計画の背景・目的等ということになりますけれども、1 背景と目的というところでは、趣旨としましては、寒河江市においては学校施設が昭和40年代から50年代にかけて一斉に建設され、この度更新時期を迎えており、学校施設を効率的かつ整備していくことが求められているということ、そして中段になりますけれども、国の方で令和3年8月に、令和の日本型学校教育の構築に向けて、新しい時代の学びに対応した学校施設のあり方を明確化し実現することへの要請からということで、その下の行になりますけれども、学校施設全体を学びの場として創造するということを踏まえての提言がなされております。そして、段落のあとの方になりますけれども、令和3年12月に「寒河江市立学校のあり方検討委員会」の答申を受け、本計画におきましては、学校施設を総合的な観点で捉え、寒河江市公共施設等総合整備計画の基本的な考え方や、「寒河江市立学校のあり方検討委員会」による答申に基づき本計画を策定するというふうにしております。

2 計画の位置づけになりますけれども、4ページの図をご覧いただきたいと思います。まず国の方では「インフラ長寿命化基本計画」、そして「文科省インフラ長寿命化計画」等を受け、そして寒河江市においては、「第6次寒河江市振興計画」、それに基づく「寒河江市公共施設等総合整備計画」、そして教育委員会の部分では、「第二次寒河江市教育振興計画」を受け、更には「寒河江市立学校のあり方検討委員会答申」を受け本計画、寒河江市学校施設整備計画を策定するというところでございます。

3 計画期間でございますが、令和4年度から令和23年度までの20年間とし、5年を目安に計画を見直していくこととしています。

4 対象施設でございますが、本市の小学校9校・中学校3校として、学校教育課の資産台帳に基づく施設という事で、4ページから6ページまで掲載しております。

Ⅱ 学校施設の目指すべき姿というところですが、こちらについては国の方針に基づき学校施設の目指すべき姿として、次の項目に着目するという事で、まず、1 地域の実情と将来を見据えた学校の配置、そして2 安全安心な学校施設、3 快適な学習環境、4 多様な学習内容・学習形態に対応した学習環境、5 地域拠点としての学校施設、6 地域環境に配慮した学校施設ということで、以下の項目を掲載しています。

8ページになりますが、Ⅲ学校施設の実態の項目でございます。これらの実態に基づいて計画を作る訳ですけれども、まず、1 児童生徒数の推移ということで、(1) 令和3年3月に「寒河江市人口ビジョン」の人口の将来展望が出されておりますので、それと連動したような形で推計値を出しております。さらに、「寒河江市人口ビジョン」では、学校ごとの児童生徒数までは出ておりませんので、独自に国土交通省の機関であります国土技術政策総合研究所のソフトを活用して将来の児童生徒数を推計しております。

(2) 児童数の推移ということで、8ページにはこちらの一覧表、そして9ページの上の方には具体的なグラフというふうなことで示しております。

(3) は中学校生徒数の推移ということで、同じ手法で推計した値とグラフを提示しております。

10ページになりますけれども、2 学校施設の老朽化状況の実態ということで、こちらについては国の基準に基づいてそれぞれ指標について評価しております。

(1) 構造躯体の健全性の評価、(2) 構造躯体以外の劣化状況等の評価ということでしておりまして、(3) で対象建物の評価状況ということで、寒河江市内の施設について目視をもってそれぞれの状況を把握しております。

11ページの下2行になりますけれども、健全度においては、中学校では全ての中学校校舎が、小学校では西根小学校と高松小学校校舎の劣化が大きいことから、早急な対応が求められますということで記載させていただいております。具体的に施設ごとの劣化状況、健全度を出しているのが12ページ13ページでございますが、12ページの14 西根小学校の校舎管理棟については健全度が40点、21 高松小学校の校舎及び給食室が、健全度が40点、そして13ページにあります各中学校の健全度についても、表を見比べますと一律に低くなっていることが見て取れると思います。

これらの実態をふまえて、13ページのⅣ学校施設整備の基本的な方針等ということで記載しております。そしてまず国の教育方針や財政事情を勘案した上で、学校再編と改修計画を策定するというふうなことで、寒河江市公共施設総合管理計画では記載されておりまして、これと「あり方検討委員会」の答申内容を踏まえ、今回の学校施設整備の基本的な方針を定めることということで記載させていただいております。

I 地域の実情と将来を見据えた学校の配置という項目でございますが、その項目の3行目、本市における1学級当たりの児童生徒数と学級数でございますが、教育やまがた「さんさんプラン」で編成されている21人から33人が、1学級当たりの児童生徒数ということでは望ましいということとさせていただきます。

14ページになりますけれども、学級数については、クラス替えができる複数学級、できれば国が示す小中学校の標準学級数である12～18学級が望ましいというふうに考えております。

次に学区については、学区の再編について慎重な意見もあることから、小学校においては学校

を合わせる、統合することはあっても、学区を分けたり再編することは、当該学区へ与える影響を考え、当面の間、現行の学区を分けることはしないというふうにしております。

中学校の整備になりますけれども、「あり方検討委員会」の答申では、1校と2校を併記しておりましたけれども、2校になることで市内の切磋琢磨により高め合うことが可能であるというふうな考えもありますけれども、そういうことで2校案について併記されていましたが、今後のデジタル化やグローバル化により、県内だけでなく国内を意識した切磋琢磨の環境が想定されているというふうなことから、こういった新しい教育の推進に対応するため、教育資源を1つに集中し、未来の寒河江市を担う「さがえっこ」を育成するための統一的なビジョンを策定し、効率的かつ優良な教育環境を構築していくことが重要であり、令和10年度を目途に、新たな敷地を求めて、現在の3校を1校に統合するということが記載しております。

小学校の整備につきましては、複式学級の早期解消という答申もございましたので、令和8年度を目途に三泉小学校と西根小学校の統合、高松小学校と白岩小学校と醍醐小学校の統合を進めてまいります。

さらに、西根小学校の老朽化に対応するため、令和14年度を目途に、2つの統合した小学校の新校舎を現在の陵東中学校の跡地に整備してまいります。

また、今後クラス替えができない学年単学級となる可能性が見込まれる、南部小学校及び柴橋小学校については、南部小学校と寒河江小学校を、柴橋小学校と寒河江中部小学校を、それぞれ統合することを前提に整備していきます。

なお、整備を進めていく中で、児童生徒数の動態や社会情勢の変化に応じた計画の変更についても行うこととしております。

15ページをご覧くださいと思います。学校施設整備のロードマップということで、示させていただきます。ここで1点お断りしておきたいのですが、皆様に資料を配布した後の市政調整会議の中で、財政的な見直しも図る必要があるという意見も出まして、こちらの整備年度については、もう一度検討するということになりましたので、整備年度についてはスライドで変更になってくるということでご了解いただきたいと思います。

ロードマップの道筋についてご説明したいと思います。

まず、中学校は1校に統合するということが、そして答申の内容を受けまして、複式学級を早期に解消すること、そして、1学年複数学級でクラス替えが可能であること、そして、築50年経過は改築していくというふうな答申を受けてのロードマップを作成させていただいております。

まず、中学校につきましては、令和4年度からということになりますけれども、陵南中、陵東中、陵西中を新しい土地を求めて新築していく予定です。「あり方検討委員会」では令和10年度からというふうなことでしたけれども、複式学級を早期に解消する必要があることから、令和8年度に西根小学校と三泉小学校、そして高松小学校、醍醐小学校、白岩小学校をそれぞれ西根小学校と醍醐小学校に統合し、その後陵東中学校跡地に新校舎を新築し統合していくということになります。

そして、その上になりますけれども、寒河江中部小学校と柴橋小学校を陵南中学校跡地に新校舎を新築し統合していくというふうになります。

そして、いちばん上の方になりますけれども、寒河江小、南部小学校について、寒河江小学校に統合していくというふうになります。ただし、※1児童生徒数の動態や社会情勢の変化により、

寒河江小学校を陵東中学校跡地の新校舎への統合、そして南部小学校を陵南中学校跡地の新校舎への統合とすることも、推移を見ながら検討していくというふうにしております。

16ページをご覧くださいと思います。2今後の学校のあり方や将来の学校像に対する本市の基本的な方針についてでございますけれども、こちらについては、学校のあり方答申の内容について、そしてその中で施設整備に関する項目について主に記載させていただいております。

(1) 小中学校の施設・整備そして、(2) 小中学校の通学手段ということで、登校によりスクールバス等の施設の整備を行うということになります。(3) では小中学校における新しい教育への対応ということで、現在も進んでおりますけれども、新しい教育への対応について、これらの項目について対応した施設の整備を行うというふうにしております。(4) 中学校の部活動への対応ということで、以下の項目に配慮した施設の整備を行うということにしております。(5) まちづくりとの連動ということで、現在進めておりますコミュニティスクールの更なる推進ということで期待をしております。

3 改修等の基本的な方針ということですが、こちらについては国の基準に基づいて長寿命化の方針であったり、目標使用年数、改修周期の設定をしております。

V 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等でございますが、こちらについても国の基準に基づいて記載をしておりますけれども、建物の部分ごとの改修について記載しております。

(1) 屋上防水・屋根仕上げ、(2) 外壁・外部建具改修、(3) 内装改修、(4)、電気設備改修、(5) 機械設備改修、(6) バリアフリー改修、(7) 防災・防犯対策というふうな項目で記載させていただいております。

2 維持管理の項目・手法等についても各項目について記載しています。

(1) 老朽化対策を図る整備、(2) 新時代の学びを支える安全・安心な教育環境の確保を図る整備、(3) 教室不足の解消等を図る整備、(4) 教育環境の質的な向上を図る整備、(5) 施設の特性に配慮した教育環境の充実を図る整備ということになっております。

23ページ、学校給食施設のところになりますけれども、本市の学校給食施設は、中学校は給食センター方式、小学校は自校調理方式で一部委託という実態があり、SDGsへの対応を考慮しながら、学校施設の再整備にあわせて整備できるよう統一したシステムを検討していくことも記載しております。

23ページ、VI 学校施設整備の実施計画ということで、1実施計画、そして、2長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果の記載。

24ページ、VII 学校施設整備計画の継続的運用方針ということで、特に3フォローアップでは、5年を目途に、取組の進捗を管理する手法として、「計画(P L A N) —実施(D O) —評価(C H E C K) —改善(A C T I O N)」のいわゆるPDAサイクルを確立していくということで記載をしております。

今後、詳細についてはパブリックコメントを実施して、3月の教育委員会で議決をいただければなというふうに考えております。

○佐藤洋樹市長

今まとめていただいた整備計画の概要について、説明がありましたが、皆さんは事前に目を通していただいたというわけでございますけれども、率直な感想とかご意見などお伺いをしたいと

思います。

○鈴木淳一委員

それでは、お話をさせていただきます。私たちもこれまで開催されてきました、学校のあり方検討委員会を傍聴させていただきました。印象に残っているのが、「昔は子どもが増えて、教室が足りなくなり、新しい学校を建設しなければならなかったが、今は子どもが少なくなってきて、新しい学校を作らなければならなくなっている。」というご意見でした。小学校9校中学校3校、これをどういうふうにしていくのか、子どもたちにとって、地域にとってなにがベストなのか、そう考える2年半であったと思っています。

特に陵西学区の方の思いは熱く、昨年幸生小の閉校があったように、「統合になるのかな」と心配もされていたようです。学校の存続よりも、子どもたちのために、統合の覚悟もしているのではないかと感じました。ただ、地域から学校がなくなる、コミュニティーが消える不安というのは、そこに暮らす方々にどのような影響を与えるのか、ここにいる我々は真剣に向き合わなくてはならないなと思っています。もしかしたら、将来そこに暮らしていた若者たちが、大人になって何かしらの変革を持ってくるのではないかと、そんな期待を私もどこかで願っているところではあります。

私たちは、今年度市内すべての小中学校を訪問しました。それぞれに個性や特徴もあり、コロナ禍ではありますが、穏やかに学びの日々を拝見することができました。今年度から導入された新しいICT機器をいち早く活用し、1年生でも柔軟に使いこなしておりましたし、素晴らしい寒河江市の教育なんだと感じた次第です。ですが、学校によっては、電子黒板が足りないという不満もお聞きしました。順番待ちで、大きな黒板がないと小さなタブレットも活かせないというお話もお聞きしました。またデジタル教科書の導入など、まだまだ、必要なものがあると教えられました。

学校の施設の中でエアコンのことも注目をして拝見させていただきました。新しい学校では、オープン教室という廊下との境のない学校を拝見させていただいて、こんなに大きなものでも冷えるのかなというふうに拝見させていただいたんですけど、1台だけでなく、2台3台と設置をさせていただきまして、快適な教室空間を作っていただいたんだと感じました。トイレも洋式化されましたし、水道蛇口もすべて自動になっていました。自動掃除ロボットもある学校もありました。

児童数の差は中心部から離れるほど、明確でした。10年前から予測はされていましたが、データにある通り、2025年の推移はおどろきのものと見えます、3年後の話です。中部小学校だけ数が違います。こうなった理由の1つは、私が思うに、安心感や・ブランド力・利便性なのかと思っています。プレミアムとラグジュアリーという言葉があるように、これを見ると、プレミアムよりもラグジュアリー感覚が、そこに住む人たちにあるのかなと感じています。日本語で言うと、理由や比較ができない「絶対的な価値」というものが、その学校の価値としてあるんだと思います。本来は、「自然豊かな環境でのびのびと教育できる学校」の方が、魅力的でプレミアムだと感じていましたが、新しく住む方々へ尋ねると、「5人や10人と少ない学級では、家庭教師みたいに1対1で教えてもらって羨ましいですね」という意見がある一方、児童が多い学校がなぜか人気となり、高校も私立への進学が多くなっています。若い親世代は、多くの友達との

かかわりの方を重要視しているのかもしれませんが。

また、大規模小学校の先にあるのが中学校で、それは部活動が関係している要因の一つでありました。今後の西村山もそうですけど、県内の部活動もそうですが、部活動の存続の問題が発生しています。先ほどの説明で、部活動の地域移行の推進も考えておられるようですけども、大会のあり方も見直ししながら早急に解決できればと思っています。

校舎についてですが、確かに小学校に比べ、中学校はどこも老朽しておりました。建て替えも必要な時期にあると思います。陵東・陵南中学校は、築50年以上の校舎です。これまで、修繕を行って、トイレなど水回りの改修工事を行ったと聞きました。ですが、コンクリート内部の配管の劣化は重大のようで、手が付けられないというお話を聞きました。配管が痛んでいるということは、水道水自体に臭いなどが発生するというので、大変な事なのだなというふうに感じた次第でした。

15ページのロードマップにつきまして、私は中学校については、1つでいいと思っています。寒河江市の同い年全員が1つになるということは、そこに通う友達・ライバルだったり、何よりも、多くの友達との出会いは宝物になると思います。これまでも、音楽祭や陸上記録会、水泳大会で同い年の児童生徒との出会いがありました。現在はありません。そこで、感じるのは、自分よりすごいのがいるとか、大きいのがいるとかに気づくことで、成長をしてきたんだと思っています。近くにスーパースターがいることで、互いの成長になるし、学力も同様だと思います。

小学校で30人の同級生が、中学校では100人。統合により300人の同級生になります。3年間で先輩後輩とあわせて卒業時には1500人以上の出会いがあります。先生方も100人以上になるでしょう、多くの人と関われることは、そう簡単なことではありません。人生誰と出会えるか、もしかしたら運命の人と出会えるかもしれません。また、すべての地区が集まることから、寒河江市内の土地や地域も知るともできるでしょう。慈恩寺を説明できる市民になれると思います。そのために地域コーディネーターにお願いし、地域探求などの取り組みができればと思います。また、私が個人的に思っていることなのですが、社会地図を頭の中で空から理解できる人は伸びる人だ、と感じています。これが、陵西学区、陵東学区、陵南学区の友達の場所に行ったということで、自分のエリアから広がり、それが寒河江市内全体というふうな空からの絵がみえて、それから山形県が見えて、日本が見えて世界が見えるというふうに、頭の中で地図を描ける人間作りを目指してなっしてほしいなというふうに思います。これから始まるコンソーシアム構想と新しい学校で、これからの子どもたちで、新しい歴史を作っしてほしいと思っています。

○高橋まり子委員

私も感想と意見を申し上げます。最近時代の流れが速いなというふうにもものすごく感じます。特にスマートフォンが幅広い世代に広く活用されるようになってから、ネット社会が加速して時代が速くなっている、変化が早くなっている。その中で、いま建物にも関することで、今から80年を想定するような建物を、学校だけでなく、市内のあちこちのものを建替えラッシュになるということにあたって、長期の建物を作るにあたって、なるべくこの時代が変わっていくということを見据えて計画していかなければならないということは非常に難しいなと思いました。とにかく、変化に対応できるように大きな枠組みでやっていくことが必要かなと思いました。

私がいまず1番最初に、非常に気を付けてほしいというか、意識してもらいたいと思っているこ

とは、最近の異常気象ですとか、いま直面しているコロナの問題ですとか、こういったことがいま取り組まれているSDGsの取り組みということが非常に欠かせないと思っています。社会として真剣に取り組まなければならない大事なことだということをコロナ禍に非常に感じております。

この建物を改修するにあたって、公共の建物がそういったことに真剣に取り組んでいるかというのは、個々の人に対する意識とか目的とか、そういったことにも非常に大きな効果があると思うので、太陽光発電ですとか、いろんなことがありますけれども、そういったことをちゃんと考えた施設づくりを、学校だけでなく考えてほしいなと思っています。その事に関しては、建替える新しい建物だけでなく、建替えるまでに時間が相当数ありますので、現存の建物をまた活用していくにあたって、意識していってもらいたいなと思っています。

学校の再編・枠組みに関しては、今後ICTがますます進んでくる時代に、授業のスタイル、対面で一斉授業というような形だけではなくて、様々な授業のスタイル、あと学校の通学に関しても色々なスタイルが、この20年、30年、50年というふうに見据えてくると、色々なふうに変化していくだろうと思っています。それに対応する建物ということでは、一つに集約しているいろいろな変化に対応できるような形にしていくことも非常に有効なのではないかなと思っています。建物や枠組みを大きくすることで、先ほども教員の数が減るのではないかなという話もちょっと聞いたのですが、教員の数だけではなくて、それに関わる事務の方ですとか、用務員の方ですとか、給食を作る方ですとか、いろいろ関係する方の人数も増えてくると思います。クラスの数によっては加配できる教員の数ですとか、余裕を持った人数の配置というのは、大きくなればなるほど、もしかしたら余裕をもっていろいろなことができるのではないかなと思うので、いま中学校1つですとか、小学校3校あるいは2校みたいな流れで大きくしていくということに、大まかには賛成しています。

ただ同時に、いま地域のつながりが非常に希薄にどんどんなっている中で、この学校の問題というのは切り離して考えられないと思いますので、地域・学校だけでなく、保育・介護・医療あらゆる分野の横の繋がりというものを常に意識して変化して考えていきたいというふうには考えます。

例えば、学区の問題、学校の規模の問題にも繋がってくると思うんですけれども、今後再編するまでに数年～10年単位でまだ時間がありますけれども、住宅地の整備や学区の問題なんかも、新しく住宅が建つときとか、引っ越されてきた方の学区の問題なんかも、もう少し柔軟に考えていく必要があるのではないかなと思います。先ほど、学校のブランドみたいな、違う言い方でしたけれども、大きな学校を若い人が求めているというような傾向があるのではないかなというお話がありましたけれども、私は必ずしも皆さんがそういう方たちばかりではない、というふうにも思っておりますし、新しく引っ越された、新しく住宅が建つ時には、「この場所はこの学区です」というふうに、市の方がどんどん打ち出してくれれば、それなりにそれを飲み込んだ人しか住まないと思うので、まずは市の方でちゃんと方針を決めてほしいというようなことを、私も思うんですけれども、他の方々からも非常に強く言われまして、そういう学区再編的な事に関して、今ある現状なんですけれども、ギリギリに住んでいる方たちの学区に関しても、もう少し再考の余地があるのではないかなというふうに思っています。

あとコミュニティスクールも進んでいますが、地域という考え方というのが、今小学校の学区単位でなんとなくイメージされていますけれども、今日の教育長のお話でもありましたが、コミ

コミュニティというものには、エリアのコミュニティの他に、テーマのコミュニティというものもある、スクールのコミュニティのエリアというのものもあるというふうに聞きました。まさしくそうだなというふうに思っていて、例えば寒河江の地域の魅力を知る、自分の住んでいるところの地域の魅力を知るといような学習でも、それが歩いて回れる、いまの学校の学区の地域というイメージではなくて、例えば慈恩寺を寒河江小学校の校区の方たちも、自分たちの地域の宝物なんだと思えるような感覚ですとか、そういった地域のエリアという枠組みがもっと柔軟で大きくなっていくといいな、というふうに思っています。いま学校が無くなっていくと、地域のコミュニティや過疎化されていくのではないかという不安も、そのこの地区だけで見るとそう思うかもしれませんが、もっと寒河江市全体で大きく見て活性化という方向を見ていくのもすごく大事ではないかなと思いました。

あとはちょっと余談なんですけれども、先日大江町に行って、大江町の公民館に貼られていたんですけれども、今年の夏休みの小学生の自由研究で、鶴岡の小学生が「大江町に住んでみた」というタイトルで自由研究をしまして、それが文部大臣科学省だったか、最優秀賞を取ったということで貼られていました。その内容が、自分の小学校で、地域の魅力を知るとい調べ学習をしたときに、全然大江町には縁も所縁もない児童だったんですけど、たまたま大江町を選んでみると、そこで知ってもっと知りたくなったと。で、たまたま夏休みが近かったので、それを自由研究の課題にして大江町に本当に長期間泊まり込んで、その前にも大江町の小学校に自分と同じ学年の小学生たちにアンケートを取り、「あなたの町の魅力は何ですか」的なアンケートを取り、実際に行ってみたり、そして自分の学校の友達も大江町に何日か呼んで招待して歩いて回ったという素晴らしい自由研究をみせていただきまして、ふるさとを愛する心というのも寒河江市で非常に大事にしていると思うのですが、自分の所だけではなくて、もう少し大きな視点でもってふるさとということをつえ、自分の所を愛するというものも大きな視点で考えていくというふうな視点が必要な時代になってきているのではないかなというふうに思いました。

○佐藤洋樹市長

はい、ありがとうございました。

○鈴木多鶴子委員

「寒河江市立学校のあり方検討委員会」には、何度か教育委員としてオブザーバー側として参加し、昨年12月の答申も読みました。適正規模の学校の利点、学級数が少ないことによる学校運営上の課題、大規模校による課題、そしてこれからの学校のあり方への意見など、大切な事ばかりが盛り込まれていると思いました。

今回の寒河江市の学校施設整備計画（案）を読み、説明を聞いて、これからの寒河江市の地域のあり方や教育のあり方に、この整備計画が大きく影響していくものと思いました。

特に未来を担う子どもたちへの影響が大きくなるだろうと思っています。寒河江市の学校をはじめ、公共の建物は古くなっているものがほとんどで、それらも合わせて寒河江市の全体のものとして考えていくことは、地域活性化のためにも非常に大事なことになっていくと考えます。この学校施設整備計画（案）の13ページからのIV 学校施設整備の基本的な方針等の中の15ページ、学校施設整備ロードマップについてですが、小学校については、地域のコミュニティ、地

域の学校という大事な役目も担ってはいますが、子どもたちの減少に伴い、小規模校の統合も致し方ないのではと思います。子どもたちにとっては、適正規模の利点を生かした学校にして、教育環境を整備していくことも大事だと思います。

しかしながら、その際には地域の結びつきが損なわれないように、公民館やコミュニティセンターなど様々な年代によって親しまれるような工夫や対策をし、活性化していくことが必要になってくると思います。

中学校については、令和10年度に1校の統合の方向が出ていますが、その時点での中学区制の人数が、生徒数の推移の表によると1000人前後となり、国が示す小中学校の標準学級数の12～18学級をかなり上回る25クラスになってしまいます。山形県の「さんさん」プランでは30クラスにもなります。1学年では10クラスです。人数的にも1学年が300人以上になることから、生徒一人ひとりに目が届くのか、一人ひとりに合わせた教育的対応ができるのか、とても不安です。その点から、私は、令和10年度の段階では2校にしてほしいと願っています。1校にするのは生徒数をもっと減った場合に検討してほしいと思っています。それでも、もし1校に統合するのであれば、生徒を誰一人取り残さないように、一人ひとりの生徒にしっかり対応できるように、先生方の対応ばかりではなく、中学校にカウンセラーはもちろん、生徒の様々な対応を関係機関と連携を取りながら、核となってできるスクールソーシャルワーカー、本を介して生徒の心に寄り添える図書館司書の配置を希望します。

社会や家庭が複雑になってきているだけに、様々な角度から生徒が抱えているものを理解していけるシステムの構築が必要だと思います。それが、いじめ・不登校の未然防止、一人ひとりの人権や多様性の尊重、心の安定につながるものと思います。また、温もりのある学校にもなっていくと思います。

コミュニティスクールの観点からは、学校施設内に地域の人や生徒たちも自由に集える居場所や、フリースクール設置も考えていったらいいのではないかと思います。

次に、答申の説明会で出た意見も、地域から学校が無くなった場合の、地域の拠り所となるものについてはとても大事なことになります。地域のコミュニティをどうしていくのか、それぞれの地域の良さを考えながらも、現状の課題を把握し、市全体でも考えていく必要が出てくると思います。

また、統合して学区が広がっても、コミュニティスクールへ、それぞれの地域の方々に関われるように工夫も必要だと思います。

最後になりますが、16ページの「学校のあり方検討委員会」で提案された将来の学校像についてですが、放課後児童クラブについては、小学校新校舎建設の時には施設内に作り、コミュニティスクールとの連携とともに、広々と活動をしたり、地域の人と関わりながら活動をしたりできるようにしていければいいなと思います。

また、ほかの市立施設や福祉施設、公民館やコミュニティセンター、保育所と一体化した整備も子どもたちや地域の人との交流や、活動の広がりにも繋がっていくので考えてほしいところです。

安全安心でおいしい学校給食という点では、寒河江自慢のおいしい自校給食を希望します。

いじめ・不登校の未然防止の実効ある取り組みに対応した施設や、一人ひとりの児童生徒の人権や多様性を尊重した施設は、これからも社会にはなくてはならないものです。様々なきめ細や

かな工夫を期待します。それこそが魅力ある学校、魅力ある地域に繋がっていくものと私は思っています。

○佐藤洋樹市長

はい、ありがとうございます。

○國井晴彦委員

よろしく申し上げます。2、3年前にも学校の統合についての話し合いが、この教育総合会議でもあったと思います。その時にも私が申し上げたのは、中学校は1つにすると、そこにいろいろな設備、予算を集中して、先生等の人材も集中して、将来の寒河江を創るような人材を育てていくべきではないかと申し上げました。同時に、小学校はできるだけ地域に残してあげて、地域と共に地域を支える子どもたち、それでその地域も残っていくのではないかなと申し上げました。

このロードマップをみますと、中学校に関してはそういう方向できているのかなと思います。その時も申し上げたんですが、中学校に関しては、用地取得等のところまで書いてあるんですが、どうしても学校が建つとその周りに町が徐々に出てくる、いろんなスーパーとか、商業施設も出てくるというようなこともあるので、できれば中学校と同時に、コンパクトシティというか、例えばトヨタが町を創るような、将来的なSDGsのことも出ましたし、カーボンニュートラルというのも考えた町づくりをしっかりと、学校を中心に適当に業者が勝手に開発するようなことではなくて、総合的にその町を、寒河江は新しい中学校を中心に、「こんないい町なんだな」と思えるような、都会からも集まってくるような町づくりをしていただきたいなというふうに思います。

また、中学校に関しては、それだけ3校を1つにするわけですから、先ほど申し上げた通り、予算にしろ、設備にしろ、人材を集中させていただきたいですし、今の寒河江にはない、例えば全天候型トラックとか、人工芝のグラウンドとか、そういうのもしっかり用意していただいて、できれば戦略的な中学校というか、将来ここからノーベル賞を受賞するような子どもが出るとか、メジャーリーガーが出るとか、世界的な経営者が出るんだとか、そういうふうに将来的な人材育成を予想されるような設備を考えていっていただきたいなというふうに思います。

また建物だけではなくて、東京などをみますと、コロナのせいもあると思うんですが、テレワークで週に1回2回さえ会社に行けばいいなんていう会社も増えています。もしかしたら学校だってこの20年30年経つと、1回2回でいいなんていうことがあるかもしれないですね。もちろんリモートワークというのが、どういうふうに教育に影響を及ぼすか分からないですが、そういう事も想定した教室づくりとか、あとは、ICTとグローバル化、あとは英語と外国語の学習ですね、そういうところも十分意識した学校にしていっていただきたいなというふうに思います。

もう一つ、このロードマップを見てみますと、中学校がどこに行っちゃうか分からないですが、もし陵西学区から外れてしまいますと、陵西学区、今の高松小、陵西中学校あたりには何もない、非常に陵西学区の人には気の毒な地域になってしまうわけですね。

あとは、南部小が寒河江小学校に行っちゃった場合、南部地区が何もないというか、そういうところですね、跡地の利用といますか、そういう面で、人が集まるにぎやかな施設ですとか、例えば都会からUターンしたりIターンしたりした人が、チャレンジして何かやれるような設備

とか、ドローンのライセンスを取れるようなとか、そういう人がどんどん集まってチャレンジできるような施設というので、人を集めてにぎやかにする方法はないのかなというふうに思った次第です。

話が前後してしまいますが、小学校に関して、地域になるべく残した方がいいと思いつながら、最近学校訪問をすると、昔は小粒でもピリリと辛いというか、特徴的で元気のある子どもたちも小さい小学校にいたのですが、最近はどうしても、ICTが整ってきたせいもあると思いますが、人数の多いところの方が賑やかで活気があって、保護者が見たら、どうしてもそっちに行かせたいなという雰囲気を非常に感じます。やっぱりこれは時代の流れかなと感じますので、小学校もこういうふうな形で統合していくしかないと思いますし、跡地利用も、先ほど言ったようにしっかり考えていっていただきたいなというふうに思います。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございました。

今まで委員の皆さんからご意見あったと思いますが。

○軽部賢教育長

いろんな視点からお話していただいたなというふうに思っています。

「あり方」が2年5カ月かかって、最初に委員の方から、「この会議で将来の寒河江の魅力的な学校、魅力的な教育をぜひ作りたいね」というような、そういった気持ちで始まって、ただ地域も陵東学区、陵南学区、陵西学区にまたがっている方々ですし、地域への思いももちろんあるし、小学生だけではなくて、幼稚園に通っている子どもさんがいる親御さんもいるので、「将来こんな風になってほしいよね」というような思いもあるので、なかなか価値観が様々あるので、一つに合意形成を持っていくのはなかなか難しかったなという感じでずっと見ていました。象徴されるのは、中学校を1校にするか2校にするかというところは、だいぶあっちに行ったり、こっちに行ったりみたいな感じがありました。今委員の方から出されたように、「将来寒河江を担っていく子どもたちを同じようなビジョンで、あるいは同じような施設の中で、多くの子どもたちが、多くの教師と触れ合いながらたくましく育っていくには、1つがいいね」というような感じの意見もあったなというふうに思っています。やっぱり懸念されるのは、「大きくなると目が届かないのではないか」とか、「様々な問題が出てくるのではないか」という、かつて大きな学校にあったような「荒れ」の意識みたいなものを引きずっている方もいらっしゃるのかなと思うんですけども、いまの寒河江市の状況を見ると、大きい学校の方が不登校があまり割合的にいない、それから國井委員からあったみたいに、活気があって親が通わせたい、そういったことがあるような気がするんですけど、そういうポジティブな発想で、寒河江の教育をこういう風にしていくんだ、そしてそのために、いろんな方に議論をしていただいて、鈴木委員からもあったみたいに、「ひとりも取り残さないような教育をどうしていくのか」という、施設面だけではなく、ソフトの面も、そういった議論も新しい学校を作っていくまでの間に、大きな議論をして、寒河江の将来の持続可能な教育をどうしていくかというのを議論を巻き起こして、それにふさわしい施設あるいはソフトを整えていくということが大事なのかなというふうに思います。ひとつにすると900人位になってしまって、その後だんだん少なくなっていくのかなと思うんですけども、そういう学

校が令和10年度か11年度にできたときには、県内で一番でっかい学校になって、全国でも大きい学校の部類になるんだと思います。そうすると、「そんな学校で大丈夫なんだろうか？」という市民の方の思いもあるんだと思いますが、それにきちっと答えられるような、「こういったしっかりした教育をやっているんです」という、そして先ほど課長の話にもあった、令和の日本型学校教育の構築の答申の中には、未来志向で、教室なんかも今みたいに箱型ではなくて、ある時は広く使ったり、ある時は階段風にやったり、子どもたちが協働的に学ぶときは、机をくっつけられて、非常にフレキシブルで自由な環境をつくって、子どもたちが個別にもできるし協働的にもできるような環境をみんな知恵を出して、「寒河江の教育ってすごいね」というようなものを作っていけばいいなというふうに感じています。

地域も新しい学校になった時に、その学校を中心にして、新たな地域を作っていくというそういうふうなことも大事だし、そして、学校だけで完結するのではなくて、いろんな人たちが集い合って子どもたちが町の人と触れあうことによって子どもたちの心も、触れ合う人たちの心も、関わることによって満足できるような、そういった交流ができるそういった学校になればいいなと思っています。「まちづくり」という視点、子どもも育つんだけど、まちの人たちも育っていくような、そして潤いを与えられるような学校をつくるにはどうしたらいいかなというのを、市民を巻き込んで議論してやっていくということがいいんじゃないかなというふうに考えているところです。学校が無くなると寂しいという気持ちも十分にわかりますけれども、新たな出会いといいますか、新たな価値観を作るために、みんな知恵を出し合って、「寒河江の未来を築く子どもたちを育てるための場なんだ」ということで議論していけばいいかなと思っています。

○佐藤洋樹市長

はい、ありがとうございます。

委員の皆さんからそれぞれ2年間の検討の経過を踏まえて、ご意見をいただきました。ありがとうございます。いまのお話も伺って、やっぱりそうだなって思うのは、「教育」というのは、私はよくわかりませんが、「箱」ではないというふうに思っているんですよ。やっぱり「中身」なんだと思います。子どもたちが6年間なり3年間なり学びあって、どういうものを得て成長していくかということ。これは自分の経験くらいでしかわかりませんが、同級生とか恩師とか、人と人との関わりの中でいろんな経験をしていって成長していくということが一番大きいんじゃないかと思うんですよね。建物がどうだとか、建物の設備がどうだとか、そういうのは卒業してからしばらく経つと、あんまり覚えてないですよ。まあ覚えている人もいますが、私はあんまり覚えてないですよ。便所が汚いなんて言うのは覚えてますけど。そういう事というものもあるのではないかと思うんですよね。そういうのを個人的にずっと思っているんで、あんまり箱ものにこだわって、どうこうって思わないんですよ。ただ地域との関わりまでいくと、やっぱり地域の皆さんにとっても大事な公共施設、地域のシンボルの施設ですから、そこはこれからどういう風に考えていくのか、ただ子どもたちは、学校はあっちに通いますが、地域の中で生活をするのでね。そういう意味で地域の皆さんからも、教育長がおっしゃったけども、新しい学校に対しての新たな思いというんですかね、それを培っていただいて、新たな学校を育てていかないと、ということが必要だなと思います。

それから、この前もこの関係で議論した時にお話したんですけど、國井委員からありましたが、

実際は学校を統合していくから、跡地が残っていくわけですね、地域の中から。場所によっては地域から学校的な公共施設が無くなる地域も出てくる可能性があるので、寒河江全体のまちづくり、先ほど教育委員からもお話しあったように、少し俯瞰的に見て、新しい中学校をどういうところに整備をして、小学校をどういうところに統合していくと、残った校舎についてはどういう利活用あるいは、新たな用途の施設を配備をしていくかという、市の全体の中で考えていかないと、個別個別で考えていって、その場しのぎの利活用ではやっぱり禍根を残すというふうに思っています。そういう意味で、市の都市計画マスタープランというの、前から作ったのがあるんですけどね、あれは何年かに一度見直すということがあるんですけども、そういうものも、もう一回地図に下ろしてみて、そういう意味でのまちづくりについて、学校の再編も上手く活用して、さらに寒河江の活性化を図っていくということをしていかないと、市民の皆さんも納得してもらえるようにはなっていない部分が出てくるのかなと思いますので、我々もそういうふうな地域が活性化していってもらわないとならないので、そういう意味での利活用について、さらに知恵を絞っていきながら、学校の統廃合だけの問題だけでなく考えていくということも大変大事なことだと思っています。そういう意味では、先ほど学校教育課長からもありましたが、「スケジュール通りにはたして、いくのか」ということについて、少し、そういうすり合わせというのもしていかないといけないのかなと思います。もちろん財源的な部分ももちろんありますけれどね、そういうふうに今思っています。ざっとこのような考えでありますけれども、そういう気持ちでこの計画を受け止めさせていただいて、統廃合計画という、何というか「後ろ向き」なことではなくて、「新たなまちづくりをしていくための、新たな計画に利用しているんだ」という前向きな発想も持って、実現に向けて進めていくのが必要なのかなというふうに思いますので、市長としてはそういう気持ちでこういう計画を受け止めさせていただいておりますので、よろしくお願い申しあげたいと思います。

その他皆さんの方からはよろしいですか。特に無いようですので協議事項は終了とさせていただきます。

4 その他

5 閉 会 午後4時20分